

学校の教育目標
進んで学ぶ子 たがいに助けあう子 力いっぱいやりぬく子

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学習指導要領
- ・さいたま市施策

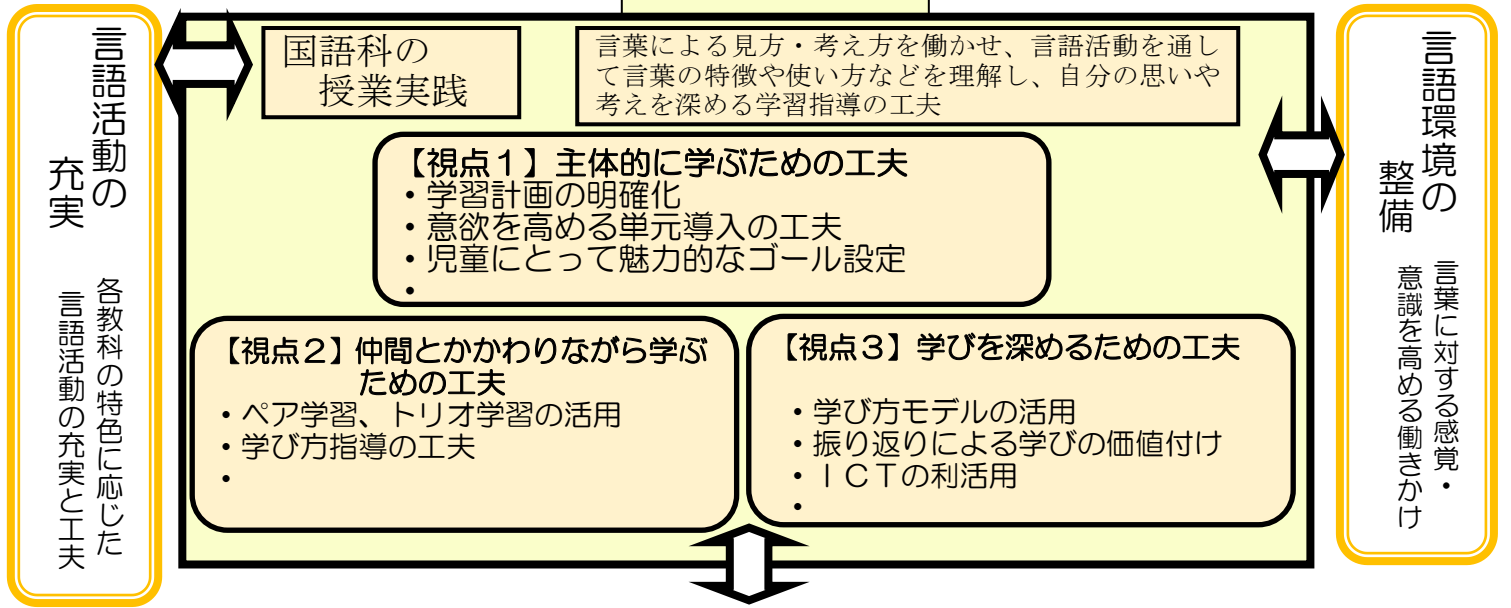
- ・児童の実態
- ・家庭の願い
- ・地域の願い
- ・教職員の願い

研究主題

自ら学び、仲間と学び、自分の思いや考えを深め、表現できる児童の育成
 ～書く活動と振り返りを通して～

目指す児童像

- 【低学年】順序立てて自ら考え、仲間と伝え合う力を高めながら、自分の思いや考えをもつことができる児童
- 【中学年】筋道立てて自ら考え、仲間と伝え合う力を高めながら、自分の思いや考えをまとめることができる児童
- 【高学年】筋道立てて自ら考え、仲間と伝え合う力を高めながら、自分の思いや考えを広げ、それをまとめることができる児童



○学びに向かう力 国語や言葉に対する知的好奇心の醸成

谷田小学校として考える「書く活動」とは

- ・授業において教師が意図的に設定する学習活動。児童が学習のめあてを達成するための効果的な手立てとして、場面や回数を工夫して位置付ける。
- ・単元全体を通して、45分の授業の中で、など視点をもって設定する。

<何のために「書く活動」を位置づけたのかを明確にして単元・授業を組み立てる>

- ・話すために「書く」 ・聞くために「書く」 ・読みを深めるために「書く」 ・書くために「書く」
- ※各学年が単元ごとにさらに具体的な意図をもたせる。

※何に書くのか、どうやって書くのか、という点についても工夫改善ができるようにしていく。

「振り返り」とは

- ・授業において教師が意図的に設定する学習活動。児童が学習内容を達成できたかどうかを確認し、学びの成果を実感できるようにする。
- ・単元のまとめ場面（第三次）では、必ず位置付ける。毎時間の授業の中では、適宜設定していく。
- ・単元のまとめ場面では、学習を通して「どんなことが分かったか」「どんなことができるようになったか」「どんな力が高まったか」を児童が自覚できるように行う。発達段階に合わせ、児童が学習内容についての振り返りができるような姿を目指していく。（付けたい力との整合性が重要）